

白浜・瀬戸漁港

沖縄生息のイカ コブシメ  
黒潮に乗り着  
黒甲が漂着



沖縄や奄美大島などに生息する日本最大のコウイカ類の一種、コブシメ（コウイカ科）の甲が、白浜町の瀬戸漁港に漂着した。白浜町は漂着の北限域に近いとされ、これまでに例しか確認されていない。

△  
漂着したコブシメの甲（右）。左は久保田信・助教教授が沖縄で拾ったコブシメの甲（白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所で）

白浜で  
2例目  
貴重な標本に

京都大学瀬戸臨海実験所の久保田伸・助教教授が4月29日朝、毎朝訪れている瀬戸漁港で堤防のへりに浮いているのを見つけた。縦約25センチ、幅約12センチで一般的な大きさより小さく、先端が欠けていた。水を吸っていたため、約340グラムと重かった。コブシメの甲は、イボ状の凹凸があり、甲の両側に沿って薄いピンク色の線が2本入っているのが特徴。久保田助教は、沖縄の慶良間諸島で拾った甲を持っていたため、すぐにコブシメの甲だと分かったという。

白浜町では1994年、同町臨海で甲が見つけられており、それ以来2例目となる。久保田助教は「白浜への漂着は珍しく、貴重な標本になるだろう」と話している。

2年前に串本町潮岬で甲を2個発見した、黒潮貝類同好会の前岩崇さん（58）は「黒潮に乗って流れてきたものが風の影響で流れ着くのだろう。さらに北に流れてもおかしくないと思うが、見つけたという話は聞かない」と話している。

紀伊半島周辺は、コブシメが住むには水温が低く、黒潮に乗って幼体が流されてきても、生息できない。